

# がんばろう 南三陸町 復興第 24 号

# 南三陸マイタウン月刊情報

発行所  
**マイタウン企画**  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL (46) 3069  
後援：  
**志津川広報センター**



敬老会に志津川地区民が大集合

ホテル観洋に 320 人

平成 25 年度敬老会がホテル観洋で開催された。9 月 25 日に志津川地区、26 日歌津地区、27 日戸倉・入谷地区に別れての祝いの会となった。

志津川地区敬老会の町長の挨拶では、「復興にあたり皆さんの経験した知識と知恵を教えてください」「数多くの思い出と尊い命を奪った大震災から、仮設生活も 3 年目を迎え、全国・世界から献身的な支援により一歩づつ」と、「互いに助け合い復興に向け進んでいきましょう」と述べた。



77才の代表菅原さん

77 歳を迎えられた方が志津川地区で 1113 名(8 月 31 日現在)で、全町では 2541 名を数える。志津川地区には 320 名の方々が出席し、昨年より参加者が増えた事は、被災からの少しの落ち着きが町民に芽生えてきているからだろう。100 歳以上が全国で 54397 人おり、町には 7 名の方がいて 3 名が志津川地区で暮らしている。

議長は、「昭和の激動の時を越えられ、今の日本を造って来た」「皆さんが守り続けてきたものを新しい世代の子供たちに繋げていく事が私たちの使命」、「敬老会に参加された皆さまの知恵と経験を生かしていく事が大切」とも語った。

今日から敬老会の仲間入りの 102 名を代表して、平東の菅原さんに祝いの「祝詞」を町長が授与した。

祝宴の前に、南三陸警察署の三浦課長さんが県内の交通事故の多発にあたり、高齢者への交通指導をおこなった。南三陸町においても、2 日 1 回の割合で事故が発生している。「信号機を使って渡る」ように呼び掛けた。

また、演芸では歌手の大至さんが相撲甚句や自分の歌を披露した。大至さんは「若貴時代」に前頭 3 枚目で活躍した方である。その他 10 団体の方々の踊りが会場を沸かせた。

現在の日本の平均寿命は、女性が 86.41 歳で男性が 79.94 歳となっている中で、南三陸町は高齢化が震災により大幅に増加している現状となっている



祝いの相撲甚句



志高生とPTA活動を讃え  
平成 25 年度同総会

平成 25 年度宮城県志津川高等学校「同窓会総会」が震災後、初めて、南三陸プラザを会場に、3000 円会費(新会員無料)で 9 月 21 日(土)に従来通りの形で開催された。会員も 59 名前後が集まり、再びの同窓会会員の顔合わせに笑顔があふれていた。

沼倉同窓会会長の挨拶で始まり「3 年ぶりの会となりました。震災の時は役員会のみで、2 年目は志高文化祭で総会のみでのチャリティー同窓会だった」と激動への 3 年間を振り返った。その他にも震災時に生徒が活躍した事、23 年 8 月には 2 校への分散から母校に戻ったことなど、同窓会としての和を持ちながら、会の益々の発展を祈った。

佐藤校長先生の挨拶では、「来年は創立 90 年を迎えます」と第一声。大正 13 年志津川実科女学校としてスタートし、上の山に昭和 23 年新生高校として志津川高校が誕生し、初代校長に尾形先生が就任し、今も志高には「尾形賞」があり、生徒の活躍に対しそれを讃え表彰していると、志高の歴史の一端を紹介した。



沼倉同窓会  
会長挨拶

佐藤町長の来賓祝辞では、被災直後の校舎下の老人ホームの救出・介抱は今だに語り継がれ、グラウンドに「SOS」の文字を作り、これがテレビで報道され全国からの支援が来た。また、「モアイ化計画」ではチリ国との架け橋として南三陸町民に元気をあたえてくれた、と話した。

引き続き、役員の改選があり、沼倉会長が顧問に退き、小畑正敏さんが新会長となり任期 2 年間で努める。小畑新会長は「厚い気持ちを前沼倉会長から引き継いぎ、新役員一同志津川高校の母校のために努めたい」と語った。

また、嬉しい報告があった。志高 PTA 佐藤会長が、PTA 創立 65 年山口大会で下村大臣より志高 PTA が全国表彰を授与された。佐藤会長は「前阿部会長が被災し散らばっている志高生を一軒づつ訪ね歩き、状況を把握したり、通学の手段として宮交バスや JR 東日本への開通の活動や安全にと尽力した」と経過を話してくれた。



PTA 佐藤会長

交流親睦会では、ビンゴで学校の先生がトップに当たるなど、笑いのたえない時間となった。しかし、話しは被災直後の事へと移る。生徒や PTA・同窓会会員も、今回の大津波から多くの事を学び、未来への教訓として語りつがれる。



南三陸町 福祉まつり  
南三陸町福祉まつり 2013

歩もうとともに明日へ

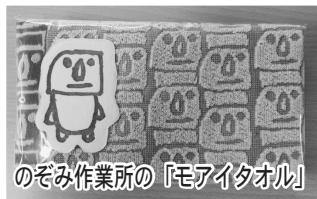
今年も南三陸町福祉まつり実行委員会により、9 月 7 日(土)アリーナに於いて、テーマを「歩もうとともに明日への輪(ワ)ンステップ」と題し、南三陸町福祉まつり 2013 が開催された。

共催は町社協、慈恵園、各種福祉作業所などで、また、県外の河内長野市社協・大阪大淀ロータリーや NPO 法人数社が協賛として参加した。

ステージでは、オープニングに大森創作太鼓・餅まきがあり、各種団体の発表も行われた。アリーナ入口では「氷」などの無料喫茶コーナーも設置され、マスコットによる募金活動も行われた。

(福)旭浦会特別養護老人ホーム慈恵園のコーナーでは、ゲームに沢山の来場者が集まり子供たちが楽しんでいた。津波による大被害となった施設は、入谷への再建が決まり、着々と建設へと歩みを進め、来年度の秋ごろを目途に再開へと向かっているという。

のぞみ作業所では、モアイをイメージした「タオル」が好評で、スタッフも首に巻き、来場者に声をかけていた。ステージでは司会者の紹介でカラオケ自慢が、「花と竜」を熱唱し会場からは大きな拍手がわき起っていた。



のぞみ作業所の「モアイタオル」

アリーナ入口のフロアーでは、おもちゃ図書館いそひよのコーナーがあり、ビニールシートの上にたくさんの多様なおもちゃが置かれ、子供連れの家族がおもちゃで共に遊ぶ、ほのぼのとした光景に「ほっ」とさせられた。



慈恵園コーナー

## 本堂の古い木材がギターに生まれ変わった



お盆に入り我が社に情報誌が届いた。横浜にある大川印刷発行の「CSR の和」19 号に、特集 1 共有価値の創造とは? 「徳性寺ギタープロジェクト」が掲載され、被災地への支援の輪の一つとして紹介された。

印刷会社の持つネットワークを生かし、地域や社会に幸福を創出する「共有価値創造企業」を目指す。経営計画における大川社長の言葉だという。

徳性寺ギターの製作は特別なもののづくりでした。500 年前に切られた木材は、数々の地震と津波を経験し、その地域で様々な光景を見てきた。その材料を使い、プロの演奏にも満足して使える本物の楽器作りをしたいと考えました。プロに使い続けてもらえること。それこそが震災の記憶を後世に伝えていくことになるからです。(株式会社 椎野正兵衛商店 代表取締役 椎野 秀聰様)

その土地の数多くの歴史を見守ってきた柱、そして多くの人々の想いが詰まった柱。そんな柱とその記憶を、これから生まれてくる震災を知らない子供たちにも伝えたいと、多くの方々の協力の下、ギターを作った。報道されない被災地域に支援の輪が広がることを願っています。(大川哲郎様)

尊い仏縁により、本堂の柱がギターとなり人々の心をホッとさせる音、人々がむき合い、支え合い、助け合えば大きな供養になると信じております。

又、この大切な「縁」を大事に布教に活かしていきます。

本当にありがとうございました。合掌。  
(徳性寺 住職)

### 町内の行事から

#### 社団法人 南三陸町シルバー人材センター解散総会

日時：平成 25 年 10 月 10 日(木)  
午前 10 時

会場：南三陸町ポータルセンター  
志津川字御前下(町営住宅跡地)

#### 会員昼食交流会

日時 平成 25 年 10 月 10 日 午前 11 時～午後 2 時  
会場 南三陸町ポータルセンター  
会費 無料



# 未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年(2013年)

7月の出来事

～地元報道より～

## ◆ミズダコ漁が本格化

南三陸町の志津川魚市場で、ミズダコの水揚げが本格化してきた。今シーズンに操業する船は震災前の9割ほどまで回復しており、7月3日には33隻が9トンを水揚げして構内を活気づかせた。

## ◆厄介者で新商品を

南三陸町で、町生活研究グループ連絡協議会の有志で組織する「ぬくもり工房」が、海藻のアカモクを原料にしたメニュー、加工品を開発しようという取り組みを行っている。

三陸沿岸では食用としてはなじみが薄く、漁船のスクリュウに絡まることもあって厄介者として扱われている海藻だが、健康に良い成分が含まれており、新たな食材として活用が期待される。

## ◆まきで炊き出し

南三陸町立歌津中学校で7月5日、全校生徒131人による火おこし、炊き出し訓練が行われた。全校生徒で組織する少年防火クラブの活動で、ライフラインが途絶えたことを想定し、まきを使ってご飯を炊き、みそ汁を作って試食した。

## ◆派遣職員に志津川産タコ

南三陸町災害ボランティアセンターなどが8月10日、町への派遣職員に志津川産タコなどを食材にした昼食を振る舞った。復興業務に当たる派遣職員に感謝の気持ちを表そうと企画され、集まった職員たちは「うまい」「カキをもう1個」などと話しながら味わっていた。

## ◆歌津で不明者搜索

南三陸署は8月11日、歌津館浜の海岸で行方不明者の搜索活動を行った。この日は、和歌山県警からの出向者を加えた5人が活動し、消波ブロックの隙間から布を引き上げたり、打ち上げられた漁具をどこかしてみたりして丹念に手掛かりを探した。手掛かりなどは見つからなかったが、「これからも搜索活動は続けていく」としている。

## ◆復興支援パソコン教室

南三陸町の志津川中学校グラウンド仮設住宅集会所で13日、復興支援パソコン教室が開かれた。昨年秋に引き続いての開催で、入居者が基本を学び、スキルアップを目指した。

## ◆被災地の現状など学ぶ

県教委による「みやぎ高校生ボランティアリーダー育成研修会」が8月13、14日の両日、南三陸町志津川自然の家などで開かれた。参加した高校生たちがリーダーとしてボランティア活動を広げる役割を担ってもらうことを狙いにしており、2回目の今回は県内7校の生徒24人が参加。被災地の現状、支援活動の意義について学んだ。

## ◆保護者へ安全に 志津川中で引き渡し訓練

南三陸町志津川中学校で8月16日、地震、津波の発生によって学校にとどまっている生徒を保護者へ引き渡し訓練が行われた。車で来校する保護者がほとんどで、混乱しないよう教員が誘導していた。防災主任の教諭は「学校は避難所になる安全な場所。慌てずに迎えに来てほしい」と話している。

## ◆介護職員 人材確保が大きな課題

南三陸町の介護職員初任者研修が町保健センターで始まった。高齢者介護に携わる職員養成を目的に、震災前から開催している講座だが、なり手不足が深刻化する中、受講者は定員の4分の1ほどにとどまっている。町では資格取得にかかる費用負担を減らし、土・日曜日に開催するなど受講しやすい環境をつくって人材確保に取り組んでいる。

## 躍動と歓喜の一日

平成25年度南三陸町志津川・戸倉地区の大運動会が、志中校庭と志小校庭に別れ、今年も天候に危ぶまれながらも開催された。来年度は戸倉中が統合され、1つになり新生志津川中学校運動会となる。

**志中**ではテーマを「Infinity∞」～志中の誇りを胸に突き進め～と題され、午前8時50分から入場が始まった。

佐藤校長は「犠牲になられた皆さんの無き命を、頑張っているよと伝えて下さい」と開会にあたり語った。

3番目の「縦割り対抗長縄」では2回跳び、2年生では、赤22回・緑39回・青34回。3年生は、赤51回・緑40回・青46回。最後の1年生は、赤22回・緑37回・青44回で、総計で青が124回で1位となり、緑116回、赤75回の順になった。

3年生のオールメンバーリレーでは、ゴールでのパフォーマンスに会場が湧い



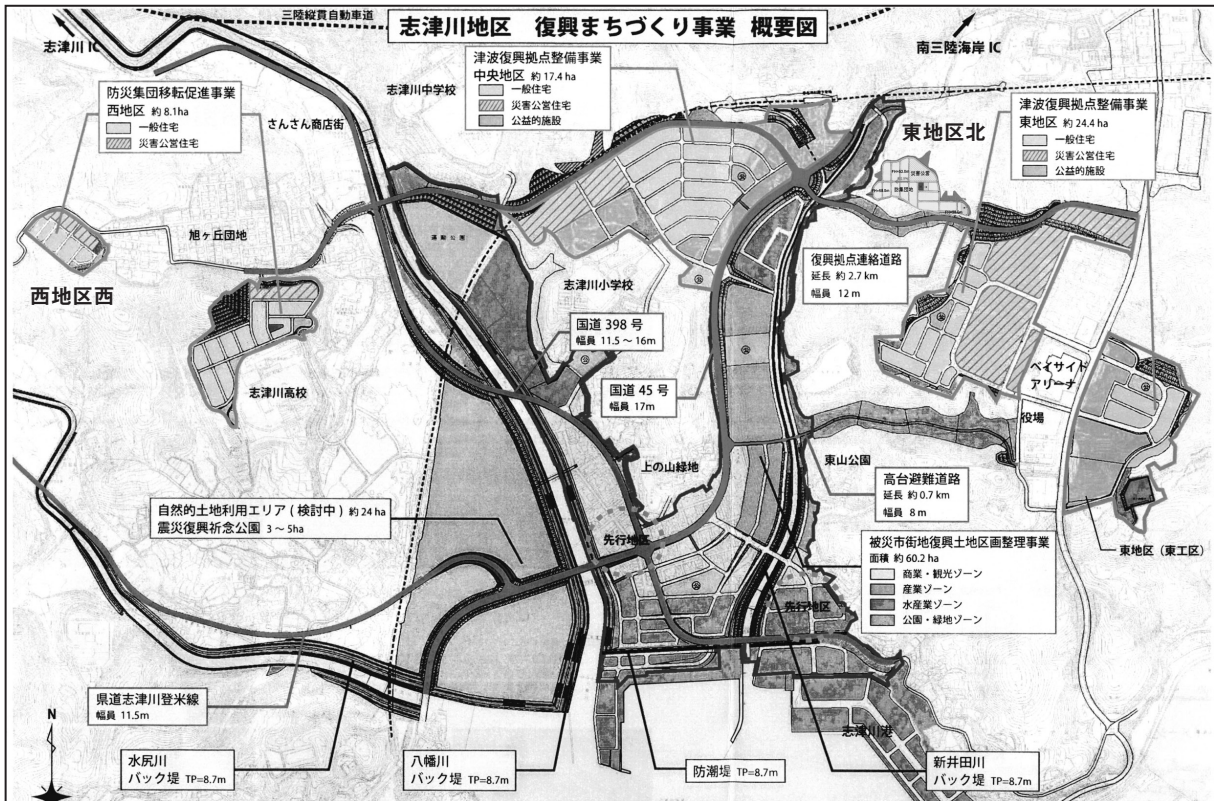
## ◆デザイナーとブランド小物制作

南三陸町の仮設住宅で暮らす女性たちがファッションデザイナーの芦田多恵さんとともにブランドの小物を制作、販売するプロジェクトが始まった。被災地を売りにせず「高品質の商品」として売り込んでいく考え。早ければ今秋から発売される予定だ。

## ◆被害木で「とんぼ」

南三陸町志津川の一般社団法人「ネットワークPLUS」が、震災被害木で製作した野球グラウンド整地用具「とんぼ」を、被災地の子供たちへ贈る取り組みを始めた。

8月20日には、志津川中学校野球部と志津川野球クラブスポーツ少年団に、合せて10本が寄贈された。



## ◆復興まちづくり着工式 高台造成本格化

南三陸町志津川市街地で計画されている主要な復興まちづくり事業の開始を告げる着工式が7月25日、沼田地内で行われた。式には町をはじめ、国、県、志津川市街地の各整備事業の業務委託を受ける都市再生機構、地権者など約150人が参加。谷公一復興副大臣が祝辞を述べた後、くわ入れ、重機による切り土掘削などが行われた。造成は新病院などが建設される志津川東地区東工区から始まり、高台移転先となる中央・西地区の整備、旧市街地の土地区画整理事業などが順次着工されていく予定となっている。

た。手を高々と挙げての生徒や、側転したり滑り込んだり、志中最後の大運動会を楽しんだ。

**戸中**は9時30分からの開始で「STAR」～一人一人が輝く忘れない運動会～と題され、親子大運動会と銘打っての、戸倉地域独特の来場者が一体となった、戸中最後の運動会となった。

先生が会場の様子をDJとなりマイクで伝える、生徒との掛け合いは、会場を笑いのうず引き込む。漁船でサンマ漁に行っているお父さんのことを聞くと「お父さんが青森からわざわざ来てくれた」と話す生徒もいて、漁業・漁師の地域性がある。

3番目の「親子でじゃえじゃえじゃえ」は、親子での障害物競争で、1周135mのグラウンドに風船割り・キャタピラ・パン食い・バットでぐるぐる・ゴム飛びを親子で協力しながら走り、足がふらふらになるお父さんや、子供と障害物を楽しみながらの競技だった。

来賓種目「たが回し」は、子供たちの前では負けられないと、一生懸命にたがを回し走る来賓・PTAに、会場から大きな声援が送られた。

その中でも「DJ先生」は生徒との掛け合いに「いつ絆をつなぐの?」の問いに、生徒は「今でしょう!」とはやりの言葉に爆笑が起る。会場は大漁旗で包まれ、生徒は色とりどりの道具で応援をしていた。

最後の運動会、戸中の在校生に長く記憶に残る親子大運動会となった。



## ◆津波観測システム復旧へ

南三陸町は、震災で壊滅した潮位観測システムの復旧を始める。3漁港内に1基ずつ設置される潮位計とともに海の様子を確認するカメラも整備され、町役場で避難広報などに活用する。

## ◆志津川湾夏祭り

南三陸町志津川湾夏祭り福興市が7月27日、南三陸さんさん商店街特設会場で開かれた。あいにくの雨模様で花火は延期されたが、悪天候を吹き飛ばそうと出店者の威勢の良い声が飛び交った。特設ステージでは、行山流水戸辺鹿子躍が勇壮な踊りを披露し、民謡やロックライブなどが続いた。復活したトコヤッサイコンテストは3団体が出場し、軽快な音楽に合わせて元気いっぱい踊りを繰り広げていた。